

## 1. 研究目的

私の親戚に、ご夫婦で造花製造を事業とされている方がおり、事業継続上の問題を抱えていることを伺った。それは、近年、国内における造花製造が近隣アジア諸国の大量生産におかれているという問題である。親戚ご夫婦の造花製造は、成人式用髪飾りが殆どの割合を占める。そこで、使う人や場所、季節などが限られる造花をもっと手軽で身近なものになるように利用範囲を広げ、減少しつつある国内の造花の需要を増やし、新しい市場を開拓するための新たな提案を行う研究である。

## 2. 調査内容

### ■造花製造における日本の現状

日本製の造花の輸出は1910年から始まり、第二次世界大戦による中止を挟みながらも、戦後再び盛んになった。とはいえ、現在は日本のメーカーは激減しており、輸出も殆どされていない状況である。したがって、現在日本で見られる造花の粗方は中国をはじめとする東南アジア諸国からの輸入品である。

### ■造花の特徴

造花の特徴としては、主に「長期間お花の美しさを保つことができること」や、「季節や天候を問わず花を咲かせることができること」が挙げられる。

造花が使われている場面は、髪飾りやコサージュといったファッション、パッケージやインテリアといった装飾の他、結婚式などの儀式にも使われる。

### ■親戚の造花製造について

製造工程においては布の染色から始まり、造花が完成するまでに手間や時間、労力がかかっている。

以上の調査を踏まえて、使用場面や用途が限られてしまいがちな造花を、より手軽かつ身近にするために次のような提案をする。

## 3. コンセプトおよびアイデア展開

### 「造花を使った贈答品用緩衝材」の提案

～感謝や祝福の気持ちを伝えるコミュニケーションツールとしての活用～

通常、贈り物を郵送する際は、箱に緩衝材として新聞紙、エア緩衝材、気泡緩衝材などを詰める。大抵の場合、新聞紙はグレー、気泡緩衝材は無色透明であり、折角ラッピングしたものの華やかさ等の演出が半減してしまう。更に、届いてすぐに処分

されてしまう点も問題と言える。そこで今回提案するのは機能性だけでなく、デザイン性を加味した「造花を使った贈答品用緩衝材」である。具体的には、エア緩衝材に造花を入れたものを製作する。

本校の文化祭(2015.11.2~3)において試作展示と造花と緩衝材に関するアンケート調査を実施。調査結果より、緩衝材を選ぶ際に具体的に気にしていることは、

見栄え 34% 強度 31% 素材 21% 価格 14% であり、緩衝材を選ぶ際は「見栄え」を気にするという意見が多く、研究の必要性を実証している。

## 4. 最終提案(作品)



緩衝材の形状は3種類、中に入れる造花は、贈り物自体が引き立つような1輪の物(左、中央図)とアクセントになるようなコサージュ風(右図)の2種を製作。また、もらった人への緩衝材の説明書も合わせて作成。

主婦の方々に実際に贈り物と緩衝材を箱に入れた状態で見ってもらったところ、「開けた瞬間にワクワクする」「相手の好きな色の花にするなど、緩衝材もラッピングを選ぶときのように楽しめる」「再利用して他の人にも送りたくなる」「造花の使用頻度が増えそう」「もっと緩衝材の形のバリエーションがあると良い」等の意見を頂いた。

今回の提案で、造花の可能性が広がり、需要を増やすきっかけとなったのではないかと考える。

## 5. 今後の発展

今後の発展として、造花の種類を増やすことや、緩衝材の形状の多様化、さらなる需要拡大に向けたブランディングなどが考えられる。

## 文献、参照サイト

[1] 社団法人パッケージデザイン協会(2012)『祝いのかたち』六耀社

[2] IIBPC 大阪 マーケット情報 造花

[http://www.ibpcosaka.or.jp/network/trade\\_japanesemarket/gift\\_decorative/artflowers97.html](http://www.ibpcosaka.or.jp/network/trade_japanesemarket/gift_decorative/artflowers97.html) (2015.9)